

平成28年12月21日  
NHK広報局

平成28年12月放送総局長定例記者会見 要旨

○第67回NHK紅白歌合戦 ゲスト審査員決定

ゲスト審査員10名が決定。各界から、今年を代表するすばらしい方々にお願いした。リオオリンピック、パラリンピックで日本を盛り上げてくれたメダリスト3名や、「とと姉ちゃん」「真田丸」などNHKで好評をいただいたドラマの出演者、また文学や漫画界の方々など。

(詳細は報道資料を参照)

○1/1<総合>「NHKスペシャル どうなる?“トランプ大統領の世界”(仮)

(木田放送総局長)

トランプ大統領の誕生によって世界はどうなっていくのか。激動する各国の最前線を大越健介キャスターが取材し、栗山千明さんや伊集院光さんらゲストとともにきたるべきトランプ時代を予測。ナショナリズムはどこまで広がるのか。ロシアのプーチン大統領の次の一手とは? 転換点を迎えた世界の行方を大胆に展望する。

(詳細は報道資料を参照)

○1/9<総合>「NHKスペシャル シリーズ東日本大震災」(木田総局長)

福島県での自殺率が震災の4年目に急上昇しているというデータが、世界的な医学誌に掲載された。その背景として指摘されるのが、複雑化する原発事故被災者を取り巻く環境だ。さらに、被災者それぞれの境遇にも違いが現れ、親しかった親族や知人との間に分断が生まれ、孤立感が強まっているという指摘もある。番組では、自殺を防ごうとする医師やNPOの取り組みを中心に、福島の被災者の心に何が起きているのかを考えていく。

(詳細は報道資料を参照)

○冬こそスポーツ観戦! 1月のスポーツ中継見どころ(荒木副総局長)

元日は、「天皇杯サッカー・決勝」。この試合からNHKサッカー放送のテーマソングが人気ロックバンド「ONE OK ROCK」の「We are」に変わる。1月14、20、21日は国内で「ジャンプ女子ワールドカップ」が行われ、高梨沙羅選手に注目。また、「全国都道府県対抗駅伝」の女子は15日、男子は22日に行われ、特設サイトやスマートフォン・タブレット向けアプリで、ライブストリーミングを実施。放送では出ない各都道府県代表の走りや中継所の様子なども配信する。そして15日は、「プロバスケットボール Bリーグ」初のオールスター戦も行われる。16日からは「全豪オープンテニス」を錦織選手の試合を中心にお伝えする。さらに21、22日は「全日本卓球選手権」、30日からは「日本カーリング選手権」を放送する。

(詳細は報道資料を参照)

○1/6<総合>「村山斉の宇宙をめぐる大冒険」(荒木副総局長)

「宇宙はどう始まったのか?」「なぜ我々は存在するのか?」「宇宙はこれからどうなるのか?」。世界の第一線で活躍する素粒子物理学者・村山斉さんが、これらの謎に挑む。宇宙をひもとく秘密が隠された世界各地の絶景を訪ね、分かりやすい例え話を交えて“最新宇宙論”を展開する。さらに、ピザづくりや室内施設でのスカイダイビング体験など、みずから体を張った実験や、ノーベル賞受賞者との対談を敢行。宇宙の謎にCGを駆使した壮大なスケールの映像で迫る。

(詳細は報道資料を参照)

○1/9～<Eテレ>「100分 de 名著」中原中也詩集（安齋副総局長）

「汚れつちまつた悲しみに…」 「サーカス」などの詩で知られ、多くの人に読み継がれている詩人・中原中也が誕生して来年で110年。4回にわたり、中也の詩に新しい角度から光を当てる。みずみずしい感性が貫かれた彼の「詩のことば」の深い意味を読み解き、私たち現代人にとって「詩」がどんな意味を持つのか、「詩」を味わうとはどういうことなのかを浮き彫りにしていく。舞台や映画で活躍中の俳優、森山未来さんによる朗読も見どころ。

また、1月18日（水）BSプレミアムでは、中原中也の故郷・山口を舞台にした地域ドラマ「朗読屋」を放送する。  
（詳細は報道資料を参照）

○1/8<BS1> BS1スペシャル「ゾウから見える動物園の未来」（安齋副総局長）

動物園で圧倒的な人気を誇る「ゾウ」は、この10年間で国内の7つの動物園から姿を消した。高齢のゾウが死んでも新たに連れてくることができない今、動物園に最も期待されているのは「種の保存」である。番組では、「アジアゾウ」にスポットを当て、新たに飼育に取り組もうとしている札幌市の円山動物園を中心に、世界の動物園のゾウ飼育に関するさまざまな試みを紹介しながら、動物園の使命と未来について考える。  
（詳細は報道資料を参照）

○<BS P> シリーズ「中国王朝よみがえる伝説 悪女たちの真実」（安齋副総局長）

近年の中国で急速に進む考古学の発掘や新資料の発見から、「悪女」と非難されてきた女性たちの実像に迫る。1月25日に放送する第一集は「西太后と光緒帝」。光緒帝から権力を奪い清王朝の実権を握った西太后は、列強の進出に苦しむなか、私欲からぜいたくの限りを尽くしたことが、清の滅亡を早めたとされてきた。ところが、西太后の墓から見つかった遺品などの研究から、実は西太后は、列強に懸命に抵抗し清王朝の存続を図ったのではないかと考えられ始めている。悪女の謎を探る旅人は、女優・戸田恵梨香さん。「蒼穹の昴」で西太后を描いた作家・浅田次郎さんが西太后の素顔を探る。  
（詳細は報道資料を参照）

Q.放送が終わった大河ドラマ「真田丸」を振り返っての感想、来年1月8日から始まる「おんな城主 直虎」への期待について

A.（木田総局長）真田丸は素晴らしい大河ドラマだったと思う。脚本を担当していただいた三谷幸喜さん、出演者の皆さん、スタッフ、直接、間接的に真田丸に関わった人たち皆のエネルギーがそれぞれ視聴者に届いたのだと実感している。三谷さんならではの今までにない切り口、登場人物の描き方、物語全体の運び、そして何より、堺雅人さん扮する真田信繁が乱世を生き抜いた姿が本当にみずみずしく描かれ、毎回の魅力につながったのではないかと思います。

来年の大河ドラマの井伊直虎は、今年の大河とは一変して知られていないが、森下佳子さんの脚本をはじめ、柴咲コウさんをはじめとする出演者、スタッフが、知られていない世界をどのように描き出していくか、そこにぜひ注目していただきたい。

